

行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	次世代低公害車開発・実用化促進事業		事業開始年度	平成17年度		作成責任者
担当部局	自動車交通局		担当課室	技術安全部環境課		課長 小田 曜作
会計区分	一般会計 自動車安全特別会計(自動車検査登録勘定)		上位政策	快適な道路環境等を創造する		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	-		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	「低炭素社会づくり行動計画」(平成20年7月)に規定された「次世代自動車について、2020年までに新車販売のうち2台に1台の割合で導入する」という目標の実現を目指し、さらに、原油価格高騰等の課題にも対応するため、次世代の運輸エネルギーを利用し、また環境性能を格段に向上させた次世代低公害車(大型トラック、バス)の開発・実用化を促進する。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	環境性能を格段に向上させた次世代のバス・トラック等(非接触給電ハイブリッド自動車、スーパークリーンディーゼルエンジン、DME自動車、FTD自動車、大型CNG自動車、LNG自動車、水素エンジン)を開発・試作し、実際の事業で使用する走行試験等を実施する。また、実用性の向上(技術的改良等)及び基準整備に資する。					
実施状況	平成19年以降、開発の進んだ車種(非接触給電ハイブリッドバス、DMEトラック、FTDバス、大型CNGトラック等)から順次、実証モデル事業(試作車を実際の運送事業、バス事業に使用して環境性能、耐久性、整備の容易性等に関するデータを収集し、これを踏まえて実際の事業に使えるレベルまで車両を改良していくもの)を実施し、実用性の向上を図っている。 非接触給電ハイブリッドバス:H19年度(羽田空港循環路線(約2週間)、 H20年度(洞爺湖サミットシャトルバス(9日間)、上高地山岳路線(3日間))、 H21年度(東京都営バス(約2週間)、横浜エコカーワールドシャトルバス(2日間)) DMEトラック:H21-H22年度(新潟地域及び関東地域(H21.11月より継続中)) FTDバス:H20-H21年度(東京都営バス(約1年間))、 FTD+HVOバス:H22年度(東京都営バス(7月より継続中)) 大型CNGトラック:H19-H21年度(東京～大阪間(約2年間))					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	413	470	1,359	245	300
	執行額	408	412	1,351		
	執行率	98.8%	87.7%	99.4%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	-		
自己点検	支出先・使途の把握 水準・状況	事業の進捗状況等については、各対象車種毎に、学識経験者等で構成されるワーキンググループ(年2回開催)、本会議(年度末開催)において確認し、事業の効果的・効率的な実施に努めている。				
	見直しの余地	これまで、本事業においては、主に大気汚染対策を中心に、次世代車両の開発・実用化を進めてきたところであるが、現在、2020年に向けた地球温暖化対策は重要課題となっていることから、対象車種の見直しを含め、大型商用車分野(バス・トラック)でのCO2削減技術開発について、より効果的な推進施策となるよう検討を行う。				
化予算監視の・所見率	【一部改善】 対象車種の絞り込みなど政策的に優先度の高いものに重点化。					
補記	【予算科目】					
	一般会計					
	010 道路環境等対策費					
	95 道路環境等対策に必要な経費	(21年度予算額)		(21年度決算見込額)		
	13054-2129-06 技術研究開発謝金	0百万円		0百万円		
	13054-2122-08 技術研究開発委員等旅費	0百万円		0百万円		
	13054-2125-09 技術研究開発調査費	8百万円		8百万円		
	13054-2125-14 技術研究開発委託費	1,062百万円		1,054百万円		
	自動車安全特別会計 (自動車検査登録勘定)					
	05 業務取扱費	(21年度予算額)		(21年度決算見込額)		
95 業務取扱いに必要な経費						
95016-129-06 諸謝金	1百万円		-百万円			
95016-122-08 職員旅費	0百万円		0百万円			
95016-122-08 委員等旅費	0百万円		0百万円			
95016-123-09 庁費	0百万円		0百万円			
95054-125-14 自動車検査基準策定調査等委託費	288百万円		287百万円			

国土交通本省
1,351百万円

〔事業の企画・立案、進捗管理・指導〕



【一般競争入札】

A. 民間事業者等(9社)
1,346百万円

①次世代低公害車について、試作車を用いた実証走行試験等を実施し、次世代低公害車の満たすべき技術的要件(技術指針案)の検討や、車両の技術的改良を行い、次世代低公害車の実用性の向上を図る。

②次世代低公害車の車両価格の低コスト化を図るため、次世代低公害車用部品の仕様標準化の検討等を行い、その結果等を踏まえ、次世代低公害車の普及に向けた課題について検討する。

③これまでの開発試作や走行試験の実施内容をふまえた技術的検討等を行った上で、次世代低公害車の普及に向けたシナリオに関する情報分析を実施する。

④これまで開発した試作車両等のうち、実用化の目処が近く、地球温暖化対策に資するものに重点化し、集中的な技術的改良等を実施し、次世代低公害車の基盤となる先駆的環境技術の早期確立を図る。

委員等旅費
0百万円

事務費
5百万円

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.日野自動車(株)			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	車両改造費、部品購入費、実証試験計測・ 実証走行対応工賃 等	436			
その他	一般管理費等	54			
計		490	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。使途と
 費目の双方で実
 情が分かるよう
 に記載)

【別紙】

A 民間事業者等(9社) 1,346百万円		
No.	支出先	金額 (百万円)
1	日野自動車(株)	490
2	(株)新エイシーイー	394
3	(独)交通安全環境研究所	185
4	昭和飛行機工業(株)	100
5	三菱重工業(株)	90
6	(株)日本ガス協会	30
7	(株)いすゞ中央研究所	25
8	トヨタ自動車(株)	25
9	東京都市大学	7
10		